



令和元年度	・ぷらっとだより No.4 発行	2000 部	・週 2 回ほどの開所スケジュールのお知らせ。誰もが気軽に集い、人の輪ができる拠点づくりを PR。
	・「カフェ・バード」	15 名	・自家焙煎のコーヒーをふるまう。マスター役は、毎日のように四季折々の風景や鳥の撮影に公園に通うコーヒー通の男性。コーヒーを飲みながら気軽にお話。マスターが撮影した写真を見せてもらったり、鳥の解説をきくことも。月 1 回開催。
	・ぷらっとだより No.5 発行	2000 部	・イベントの案内と先月までの活動報告。
	・「竹灯籠のタベ」に参加	50 名	・子ども向け工作とのこぎりで竹を切る体験ブース。「ぷらっと工作所」の PR。
	・「ツリークライミング」	30 名	・専門家の指導のもと、谷矢部池公園のケヤキやナラノキにロープをかけて高い所まで上る体験。現場下見に高所の枯れ枝整備が含まれ、樹木の定期的な整備を兼ねる。
	・ぷらっとだより No.6 発行	2000 部	・予定表を大きく見やすくし、イベントの PR に力を入れる。
	・「苔玉づくり」	10 名	・地域の園芸農家の指導で、苔玉に向く植物や育て方のコツも教えていただいた。
	・ぷらっとだより No.7 発行	2000 部	・隔月発行の形ができた。
	・「ぷらっとフェスティバル」	150 名	・ぷらっと開設 1 周年の記念イベント。お花見の時期にグラウンドにステージ、キッチンカーや食品販売、フリーマーケットなどを出し多くの人でにぎわった。樹林では、工作体験・ボーイスカウトによるアウトドア体験など、子ども向けのプログラムを展開。
	・「樹名板づくり」	20 名	・土木事務所の協力のもと、子どもたちが公園内の樹木に名板を作り取付けた。裏には自分の名前も書いて木に愛着を持てるようにした。
・ぷらっとだより No.8 発行	2000 部	・開所中はカワセミのデザインの風見鶏と旗を掲げていることを PR。	
・「わら細工づくり」	10 名	・地域の方に教わり、稲わらで端午の節句の飾りを作った。米の収穫後、稲わらを生活に利用していたことなど、昔の里山の生活を伝えた。	
・「ツリークライミング」	30 名	・2 回目の開催。「遠方でないと体験できないことが身近な公園で体験できる、貴重だ」と口コミで広まり、応募が一気に増えた。高所の樹木の手入れを兼ねるため、定期的開催。	
・「寄せ植え教室」	10 名	・園芸農家の指導で、土づくりから肥料や薬剤の知識まで学んだ。	
・「田植え体験」	20 名	・公園の湧き水を利用した棚田で、子どもたちが田植えを体験。	
・ぷらっとだより No.9 発行	2000 部	・子どもたちの夏休み向け工作をメインに PR。	
・「七夕飾りづくり」	10 名	・公園の竹を使い卓上の笹飾りを作った。ペン立てにも応用できる作りにした。一部の保護者には竹を切り出し作業もしてもらった。公園の竹を勝手に切っていく人がいるため、注意喚起を兼ねてプログラム中に竹を切る機会を設ける。	
・「ひょうたん飾りづくり」	20 名	・夏休みの工作。地域の方が育てたひょうたんを提供してもらい、ライトにした。	
・「生き物観察会」	50 名	・公園の樹林部はセミの鳴き声が響き渡り、たくさんの生き物が生き生きと過ごしている。専門家に解説してもらいながら、親子で生き物を観察した。	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぷらっとだより No. 10 発行</li> </ul>	2000 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配付範囲を拡大。多くの方にぷらっとを知ってもらい、里山づくりへの協力を呼びかけた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「飾り竹灯籠づくり」</li> </ul>	20 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10 月末に谷矢部池公園で行う「竹灯籠の夕べ」に飾るための飾り竹灯籠を作る。昨年まで参加対象は矢部小学校の児童家庭のみだったが、今年は「ぷらっと谷矢部」でも企画し、広く参加者を募集した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・汲沢小学校・東汲沢小学校「体験学習」のサポート</li> </ul>	10 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然観察や遠足で公園にくる近隣小学校の児童に、公園の自然の説明、はく製のアリゲーターガーを紹介した。公園で秋を見つけ、ムクロジなど木の実を拾う児童の笑顔が、協力者の喜びにつながっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぷらっとだより No. 11 発行</li> </ul>	2500 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントや学習支援を通して、近隣小中学校とのつながりが広がり、ぷらっとだよりを児童の家庭に配付する協力をさせていただけるようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ツリークライミング」</li> </ul>	30 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な開催を実践し、樹木の手入れをしてもらう。今回は台風の影響で公園内の大木が折れたり倒れたり、かなりの打撃を受けた。今にも倒れそうな木を早急に処理した方がよいとのことで専門家のご協力で処理していただいた。イベントは満員になり、キャンセル待ちが出るほど人気になっている。リピーターも多い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スポーツフェスティバル」</li> </ul>	200 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連合町内会・近隣のスポーツ団体とともに、スポーツに親しむイベントを開催。子どもからお年寄りまで、世代を超えて公園でスポーツを楽しんだ。「とつかハートプラン」(戸塚区地域福祉保健計画)に基づき、スポーツを通して元気で健やかに暮らせるまちづくりにつなげる協力体制を整えた。また地域内のスポーツ団体を広く紹介し連携関係を深めた。</li> </ul>

### 3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・谷矢部池公園愛護会との連携</li> <li>・ぷらっとだより他チラシの配付、掲示</li> <li>・「竹灯籠の夕べ」に参加</li> <li>・「スポーツフェスティバル」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛護会は 5 町内会・自治会と近隣小学校や公園内グラウンド利用団体で構成される特殊な形態の為、輪番制の公園清掃の状況把握や、利用団体間の連絡調整などの役割を担う。</li> <li>・自治会・町内会へぷらっとだよりなどの回覧・掲示を依頼。</li> <li>・毎年、愛護会を中心に行っている「竹灯籠の夕べ」に関して、地域内の調整役、準備場所の提供、機材の貸し出しなどを行う。</li> <li>・地域連合町内会との連携を図り、スポーツを通じて多世代が交流し、元気で健やかに暮らせるまちづくりを目指す。</li> </ul>
学校との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育支援</li> <li>・学校支援ボランティア「わかぎの会」との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・矢部小学校環境委員会の活動支援。近隣小学校の体験学習や遠足で公園を訪れる際、樹木や生物等、公園内全ての自然を用いて学習支援をする。</li> <li>・大人も公園の動植物について理解を深めてもらうために、樹木に詳しい方、生き物に詳しい方など、幅広い分野の専門家を紹介する。</li> <li>・「わかぎの会」の技術(間伐材の利用法や竹細工、藁の扱いなど)協力を得て、矢部小学校の児童や保護者に公園内の自然との共生の仕方を紹介。</li> </ul>

他の市民団体との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写悠会との連携</li> <li>・子育てサークルとの連携</li> <li>・地区センターとの連携</li> <li>・クローバースポーツクラブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日のように矢部池でカワセミなどの鳥や公園の姿を撮影している方々が、ぷらっとの様子を気にかけてくれている。何か変わったことがあるとすぐに連絡をくれる体制ができている。写真展やイベントの時には鳥や公園の素晴らしい写真を展示して、地域の皆さんに紹介してくれている。</li> <li>・子育てサークル humhum のイベントに協力し、小さい子連れの親子に公園利用を宣伝する。</li> <li>・地区センターの企画に協力し、参加者に公園をより身近に感じてもらう。</li> <li>・組織的にはスポーツフェスティバルから連携が始まったが、以前から小学校との連携や地域づくりについてご協力いただいている。</li> </ul>
企業等との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)NGU (生活維持向上倶楽部「匠」の運営母体)</li> <li>・大島園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方の通所サポートを手がける生活維持向上倶楽部「匠」と連携を図り、認知症の方々に花の植え替え作業や竹細工の下処理などのお手伝いをお願いしている。また認知症への理解を深めてもらえるように、その活動を「ぷらっとだより」や Facebook などで紹介している。</li> <li>・寄せ植え講座などを依頼。土づくりから地域に根ざした活動の大切さまで、様々な面で教わっている。</li> </ul>
行政との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸塚土木事務所</li> <li>・戸塚区役所</li> <li>・横浜市地域まちづくり課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園利用団体からの要望をまとめ、公園整備についての相談窓口として谷矢部池公園愛護会と土木事務所の調整を行う。年に数回、谷矢部池公園愛護会と土木事務所との現状報告会議にも参加している。</li> <li>・戸塚区地域福祉保健課 とつかハートプラン補助金</li> <li>・地域振興課や区政推進課と活動の相談をしながら、行政からの視点での協力をうけている</li> <li>・平成 28 年度「ヨコハマ市民まち普請事業」採択</li> </ul>
その他、環境以外の分野との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が個々に持っている技術やアイデアを、ぷらっとのイベントを通じて地域の方々や子どもたちへ提供している。その活動が、自治会、町内会を越えた地域交流になり、技術の継承に繋がっている。</li> </ul>

#### 4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

※個人の方は、活動を始めたきっかけについて記入してください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・谷矢部池公園愛護会に所属している自治会、町内会、公園利用団体などが輪番で毎月行う公園清掃に加えて、その中の有志 20 人程のメンバーが定期的に樹木の剪定や樹林地の伐採、生き物調査など活発に活動するとともに、矢部小学校の児童へ生き物観察会（年 2 回）や間伐した竹を使った工作など環境教育を支援していた。</li> <li>・季刊紙「わかぎかわら版」を 1 回 1,000 部、年 4 回発行し、活動報告、公園内の生き物や植物の紹介と、それに伴う環境について注意喚起や情報を発信していた。</li> <li>・平成 23 年から始まった「竹灯籠の夕べ」に向けて年間を通した継続的な活動が徐々に活発になり、拠点が必要になった。公園内の拠点作りを目的として谷矢部池公園愛護会で「ヨコハマ市民まち普請事業」へ応募。一次・二次のコンテストを通過して助成が決定。H29 年 2 月に拠点(建物)の管理団体として有志で特定非営利活動法人「ぷらっと」を立ち上げた。</li> <li>・“谷矢部池公園の豊かな自然を、矢部の子どもたちの安全な遊び場、貴重な学びの場として活かしたい”という思いを持った矢部小学校の保護者や保護者 OB、地域の協力者が活動を始めたのがきっかけ。谷矢部池公園の自然</li> </ul>
--

を生かして、子どもたちに伝えられることを考え、地域の方々の思いも大事にしながら、環境保全やそれにつながる企画・運営を手がけてきた。

・子どもたちのために、また地域のために“未来へつながるふるさとづくり”を目指している。

そのためには、近隣に住む様々な人たちがつながり同じ方向を向いて進む必要があり、「竹灯籠の夕べ」という大きなイベントを行うことで、“ふるさとづくり”に向かって協力してくれる人を増やしてきた。

## 5 今までの活動

### 活動の目標・ねらいに対する成果

・公園愛護会の有志として活動していた状態から、現在特定非営利活動法人ぷらっととしてより頻繁に活動することによって、どのように環境を整えていくかなど話し合う機会が増え、公園内への自然環境への理解がメンバー内でも広がった。

・身近にある公園で多くの人が四季を感じ、豊かな自然環境を地域に残して行く大切さを理解してもらうためにさまざまな企画やイベントをおこなった結果、少しずつ関わる人が増えている。

・子どもたちが遊びや学習の中で公園に親しみを感じてくれるように、小さい田んぼを作って田植え体験をしたり、樹木名板づくりを行い設置したり、生き物調査をしたりして環境を整えた結果、環境教育の場として遠足などで体験、見学に来る近隣小学校が増えた。

### 生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

※取組の中で、生物多様性に関するものを記入してください。

（1 ページ「生物多様性特別賞について」に事例を記載しています。）

・生き物に詳しい専門家の指導のもと、ビオトープの整備をおこない、生物の多様性を保持している。希少生物の保護や外来種の駆除などにも意識して取り組んでいる。また草刈りについてすべてきれいに刈ればよいということではなく、バランス良く刈って生き物を保全する必要があるということを知り、スタッフの環境に対する意識も高められている。

・子どもたちが五感を使って公園の豊かな自然に親しめるよう整備している。危険な箇所がないよう草刈り・清掃等を定期的実施している。「竹灯籠の夕べ」などイベントを通してつながった人たちには“未来へつながるふるさとづくり”をテーマに公園の維持管理の大切さを呼びかけ、積極的に公園整備に協力してもらっている。

・子どもたち向けに夏には生き物観察会、冬には木にこもを巻き、中の虫を観察する会などを開催している。関わった子どもたちは「公園内の自然物は持ち出さない」「他から生き物を持ち込まない」など理解が深まっている。積極的にゴミを拾うなど公園の環境についても関心が高まっている。

・将来大人になった時に、自分の住んでいるこの地域は自然が豊かな良いところだ、という思い出として心に残ってくれるように願いながら、“ふるさとづくり”を目指して環境を整えている。

## 6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

・地域の方々や学校との連携を密にしながら、人と自然との共存をめざし、みんなで一緒に「公園を新たに創造しよう」と呼びかけ、伝え続ける場所にして行きたいと考えている。これからも子どもたちの成長を見守り、人とのつながりを大切にしながら、ぷらっと谷矢部の運営を維持する資金を集めるべく、地域に広め、参加者を増やす宣伝活動を工夫していきたい。

・お年寄りから子どもたちに、残された自然あふれる公園の歴史を伝え残し、一緒に触れ合うことによって子どもたちからも元気をもらえる状況を作るために、みんなが集まれるあたたかい場所づくりを続けていきたい。

・公園の手入れに協力して下さっている方々の高齢化が進んでいるため、若い年代の人に協力を呼びかけ、森づくりに関心のあるボランティアを積極的に受け入れていく。

・世代間交流を活発にすることで、安全で住みよい街作りや顔が分かる地域交流が出来る。そして皆が誇りに思い守りたいと思えるふるさと作りを目指したい。

## 7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※最も注目してもらいたい／評価してもらいたい取組や、これまでの項目に当てはまらないPRポイントについて具体的に記入してください。

・隣近所の付き合いも薄れつつある現況において、身近にある公園に人が集まって楽しめる状況を作りたい。そのためにいろいろな企画やイベントを行い、楽しむための場所・空間を作ることで、地域の人たちが互いに寄り添い、心の豊かさを得られるよう取り組んでいる。

・豊かな自然環境を次世代に残すための土台作りとして、多くの人に四季を感じてもらい、地域に残して行くべき自然の大切さを伝えたい。そのためにこの地域の歴史や生き物についての展示など、ぷらっとを情報発信基地として充実させ、地域の活性化につなげたいと考えている。

## <環境教育支援>



## <環境保全活動>

草刈り



公園整備



子どもたちの清掃活動



生き物調査



## <イベント>

### ツリークライミング



生き物観察会



田植え体験





# 環境教育に関する掲示

